

【シリーズあれから2年】

まだまだ寒い二月のはじめ、一年半前に竣工した伊丹市のお宅伺いました。リビングで、床にラグマットを敷いた上に直に座ってお話を伺ったのですが、柔らかい杉の床板は暖かく、じわじわと足が冷えることもありませんが、ご家族皆さん冬でもスリッパは履かずに過ごしておられるそうです。

奥様ははつきりと、「傷は気にしません」とおっしゃいます。事実、遊びざかりのお子さんが二人いらつしやるせいか、杉の床板は傷だらけ。ですが、



木のすまい仕様の家 「節の形、何に見える？」



それだけ伸び伸びと過ごしている様子が垣間見え、傷や汚れを気にしておとなしく暮らすより、ずっといいと思います。それに、お子さんたちが大きくなる頃には木の色ももっと濃くなり艶も出て、傷も目立たなくなっていくますし、うつすら残る傷で、大人になったお子さんをからかってみるのもいいかもしれません。

「私はもう慣れてしまっただけ、感じないのですが、子どもの友達が来ると、『木のいい匂いがする』と言ってくれるんですよ」とおっしゃっていました。新築当時、真新しく白っぽかった柱や床板はだいぶ色付き、落ち着いた雰囲気になっています。

「木の家は経年変化も楽しいし、節の形もハート型や虫に見立てて子どもたちと楽しんでるんですよ」とおっしゃる奥様。これからも、毎日少しずつ変化していく木の住まいと仲良く暮らしていただきたいと思っています。

【日本の風土に合った暮らし方】

自然の力を見直し、理解し、住まいへ上手に取り入れてみる。そんな風に自然の力を活かそうとする方法は、日本人が昔からごく普通にしてきたことです。

かつて日本の家は、その地方、風土に合わせてさまざまな表情を持っていました。

例えば、岐阜や富山などの豪雪地帯に見られる合掌造り。雪下ろしをしやすくするために、茅葺きの急勾配な屋根が生まれました。また、強い風雨に見舞われる出雲地方の防風林は家々を囲うようにして植えられ、強い季節風をさえぎっています。

このように、かつての日本では、雨の降り方で屋根の勾配が形づくられ、日の差し方で庇の深さが決まり、風の吹き方で窓の位置を変えてきました。自然を真ん中に置き、それを防いだり、活かしたりしながら家のデザインがつけられてきたのです。

その土地の気候風土を活かし、暮らしの中で不足する部分は人工的な方法で補う、という考え方に賛同します。かつての日本の家のつくり方や暮らし方の工夫を再認識するときに来ているのではないのでしょうか。

ひょうご木のすまい協議会

会長 三渡 啓介

【兵庫県林務課からのお知らせ】

県産木材利用の住宅融資 瓦も使えば 200万円増額

昨年11月より県内産の瓦を使って住宅を新築又はリフォームする場合、既存の制度融資に200万円を上乗せできます。

新築・増改築

最高融資額：2200万円（返済期間25年以内）
リフォーム

最高融資額：700万円（返済期間10年以内）

いずれも融資金利は2%固定

平成20年3月31日までに融資実行されたものに適用されます。

詳しくは <http://web.prefhyogo.jp> まで

— ひょうご木のすまい協議会のイベントご案内 —

県産木材産地見学会

県産木材や木造住宅に興味のある皆様は、この機会にぜひご参加ください。生産地（伐採現場）から製材工場、モデルハウスまでの木材の流れをバスで訪ねます。

とき：3月22日（日）8:00～18:30（予定）

集合場所：阪急西宮北口 または JR姫路駅



見学先：伐採現場（宍粟市）・製材所（宍粟市）・モデルハウス（芦屋市/姫路市）
費用：大人／1,000円
小学生以下無料

見学先は変更になる場合があります。詳しくはお問合せ下さい。

ひょうごの木で家を作る『家づくりセミナー』（第3期）

兵庫県産の木材を利用した家づくりを学ぶ「家づくりセミナー」を開催します。再生産可能で産地や性能・品質が明確な県産木材を活用した住まいづくりは、安心で安全、しかも環境との共生にも配慮した健康で楽しいライフスタイルを提供します。計4回の講座を通し、木の家の良さや家づくりを進めていく上でのポイントを図解や映像を活用し解り易く解説します。

開催日

第1回】H20年4月26日（土）

第2回】H20年5月24日（土）

第3回】H20年6月28日（土）

第4回】H20年7月26日（土）

・時間 13:00～15:00

・費用 4,000円（4回分）

・場所 兵庫県民会館

JR 阪神 元町駅より徒歩7分
地下鉄 県庁前・東2番出口すぐ
市バス 県民会館前下車すぐ

詳しくはお問合せ下さい。

